

## 平成 30 年 6 月総務企画委員会 議事概要

H30.7.9 作成

日 時：平成 30 年 6 月 19 日（火） 18：00～19:50

会 場：建築士会会議室

出 席：

（業務執行理事兼委員長）芝 京子 （副委員長）山成 芳直

（委 員）伊藤 誠一、長田 喜樹、加藤 清、玉野 直美、沼田 有二、村島 正章  
八重野みどり

オブザーバー：須藤専務理事

### <確 認 事 項>

#### 1 前回(5/18)議事録の確認【資料 1】

- ・「総会の進め方」に関する議論について、議事概要の記載は改めないが、次回以降、検討すべき課題があることを確認して了承。

（質疑）

（委員）・賀詞交歓会とは異なり総会では名札を着用しないそうだが、懇親会まで含めて考えると再考の要あり。

（委員）・賛助会員参加者からは「来賓や会員にご挨拶したいが、お名前がわからないのでやりにくい」との声あり。

- ・懇親会の進行についての情報がないので、来賓の方々にも式次第のようなものをお渡ししてはどうか。

（専務）・懇親会では、賛助会員や新入会員など、紹介の出番がある者について名札を用意することも考えられる。総会は、従来どおり不要でよいのでは。

（副委員長）・いずれにしても来年に向けて、改めて検討しておきたい。

### <協 議 事 項>

#### 1 会長指示等による新たな検討事項について【資料 2】

- ・委員から、賛助会員の取り扱い、グループ会員割引等にかかる検討指示を紹介。

（質疑）

（委員）・グループ会員割引について、事業所によっては個人会員の会費を一部又は全部会社で負担してくれるところもあるようなので、そうしたケースでの負担軽減を図って会員増・退会抑制を目指すという趣旨だろうか？

（委員長）・小規模な事務所との間に不公平が生じないだろうか？

（委員）・グループ申告によって会誌の送付先を一本化できれば、送付手間や費用の節減になるので、会費減額の理由になると思う。

（専務）・他県のグループ割引の実施理由は、会員増というより、退会抑制を狙ったものようだ。退会されてしまうと残留会員の負担が増えるという意味で、抑止の効果が

ありそう。

(委員長)・任意のグループを結成して割引を受けるということは、あり得るか？

(専務)・それは認められていないと思う。

(委員長)・グループメンバーの異動状況の把握が難しそうだ。

(委員)・会員への慶弔対応の拡大提案だが、会員全員に公平に対応するとすれば、弔事は広げすぎと思う。やるとしても慶事に絞るべきだ。

(専務)・現行の弔事対応は、一般会員本人の逝去は弔電。役員や経験者は供花等。金銭支給の範囲を拡大するのは、事務局員の手間が増大するので無理だ。

(委員長)・結婚祝いは過去に実例がないわけではないが。

(専務)・そうしたお祝いが、資格者団体になじむ対応なのか、疑問だ。

(委員)・慶事にしても、会員同士の結婚といった特別な条件が必要では？

(委員)・建設業関係の団体の感覚でいけば、そこまでやる必要はないと感じる。

(副委員長)・支部の弔事対応は「有志」が基本。慶事についても有志対応になるのでは？

(専務)・特別会員と賛助会員の区別がわかりにくい、改善すべきとの提案だが、特別会員を廃止して賛助会員に一本化するには、定款改正が必要。総会の特別決議が必要であり、定足数 1/2・賛成 2/3 のハードルは高く、上策とは思えない。「賛助・特別会員」の表記を標準とすることで、ある程度改善されるのではないか。

(委員)・特別会員と賛助会員の間に、会費の格差がなくなっている現状では、特別会員社に賛助会員への移行を促すのも一法だ。

(委員)・「特別会員」にステータス感があるとの主張であれば、逆に賛助会員を特別会員に統合する方法があり得るのでは？

(委員)・賛助会員社には、社員の資格者に対して、個人会員としての入会をお願いしていくことで、特別会員との差別化が図れるのではないか。

(委員)・たしかに某 CAD ソフト社の担当者が、個人としても入会してくれた実績がある。

(委員長)・賛助会員社の一部に、建築士ではない一般社員を士会の旅行等の行事に、会員価格で参加させていると批判があるが、「1 団体 1 名までは会員価格」「夫婦での参加は、一方が非建築士でも会員価格」といった線引きとの関係は？

(専務)・福利厚生事業の対象は、正会員が基本だと思う。

(委員長)・講習会や旅行会の参加者、特に貸切バス旅行等では、参加者数がふるわない場合、会員外でも Ok としたくなる気持ちがわからないではないが・・・

(委員)・特定の賛助会員社の対応が問題ならば、個別に働きかける方法もある。

## 2 活動交流会について【資料 3】

・委員から、今後の開催方針について 5/23 の理事会に諮ったが、特段の意見はなかった旨、報告。

(質疑)

(副委員長)・理事会の前段で開かれた支部長・委員長会議では、今年度の川崎開催が了承された。また、平成 32 年度は横須賀開催との意思表示があり、了承されている。

## <報告事項>

### 1 入会案内活動結果の詳細について【資料4】

- ・5月委員会以降の入会状況を、委員から報告。

(質疑)

(副委員長)・過日の横浜支部総会では新入会員5名を招いて紹介したが、新規合格者ではなくベテランの建築士だった。既存住宅インスペクション業務の関連で、入会した模様。

(専務)・平成30年度の二級建築士試験申込状況だが、例年並みで特段の落ち込みは見られない。

### 2 その他

#### (1) 三会同要望による受験資格見直しについて

- ・専務より日経Xtechの紹介記事を説明。

(質疑)

(委員)・連合会からのアンケートに答えるため、昨年当委員会でこのテーマを議論したときは、「悪貨排除」ということで資質の劣る者を合格させない観点の議論だったと思う。しかし、今の若者の方がよほど純粹であり、倫理的な縛りが必要なのは、現に建築士の資格を持っている大人たちという気がする。この制度改正はいつから実施されるのだろうか？

(専務)・今国会の状況では、議員立法にしても成立は難しそう。来年度立法化とすれば、実務経験要件先送りによる免許付与は4年後になるのではないか。

(委員)・昨年も議論したが、資格取得後の定期講習受講義務が一部の建築士に限定されていることは「悪貨排除」の意味でもおかしいと思う。すべての資格者の義務とされない状態が続くのは残念。

#### (2) 県と三会(建築会議)の危険度判定協定について

(委員)・5/23付で、県と三会の間で協定が締結されたところだが、改めて判定士ネットワークの構築が必要となってきた。

(委員長)・まさに本日、三会の建築会議部会で、その課題検討をスタートさせたところだ。

(副委員長)・私も関与しているが、判定士名簿と各会会員リストの照合を進めることとなっている。

## <その他>

次回以降の委員会等について

平成30年 7月17日(火) 7月総務企画委員会 18:00～

平成30年 7月30日(月) 第364回理事会 15:00～17:00